

(様式 8)

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (教育学)	氏名	TUSWADI																				
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当																						
<p>論 文 題 目</p> <p>Disaster Management and Prevention Education for Volcanic Eruption: A Case of Merapi Area Primary Schools in Java Island, Indonesia</p>																							
<p>論文審査担当者</p> <table> <tr> <td>主 査</td> <td>広島大学大学院国際協力研究科</td> <td>教授</td> <td>林 武広 印</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>広島大学大学院国際協力研究科</td> <td>教授</td> <td>池田 秀雄</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>広島大学大学院国際協力研究科</td> <td>教授</td> <td>馬場 卓也</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>広島大学大学院国際協力研究科</td> <td>教授</td> <td>山下 隆男</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>広島大学大学院教育学研究科</td> <td>教授</td> <td>磯崎 哲夫</td> </tr> </table>				主 査	広島大学大学院国際協力研究科	教授	林 武広 印	審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	池田 秀雄	審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	馬場 卓也	審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	山下 隆男	審査委員	広島大学大学院教育学研究科	教授	磯崎 哲夫
主 査	広島大学大学院国際協力研究科	教授	林 武広 印																				
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	池田 秀雄																				
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	馬場 卓也																				
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	山下 隆男																				
審査委員	広島大学大学院教育学研究科	教授	磯崎 哲夫																				
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>多くの火山を有し、噴火による災害を蒙ることが多いインドネシアにおける小学校の防災管理と防災教育について Merapi 火山地域の小学校を対象に直接訪問によるインタビュー、質問紙および授業実践を通じた分析を行った。論文は、第 1 章序論、第 2 章先行研究分析 第 3 章 Merapi 火山の噴火の特徴と災害史、第 4 章研究方法と研究枠組み、第 5 章結果、第 6 章考察、第 7 章結論および提案からなる。</p> <p>インドネシアでは自然災害を対象した防災教育に関する研究は非常に少ないうえ、災害が頻発あする火山噴火を対象とした防災の備えや防災教育に関する研究はほとんど手つかずの現況にある。そこで本研究ではインドネシアの学校における火山防災についてより有効な備えと教育のあり方を明らかにするため危険な噴火で世界的に有名ジャワ島中部、Merapi火山麓の小学校24校を研究対象に選定し調査と分析を行っている。まず、24校における火山防災へ関するハード面およびソフト面での備えを明らかにするため校長を対象に質問紙とインタビュー調査を行った。その結果、6校では両面で良好、13校ではどちらかの面で課題有り、残り5校においては両面で課題があること、さらに検定の結果、両面の備えレベルは噴火リスクのレベルとの関連が有意であることを明らかにしている。ついで24校の教員（191名）への質問紙とインタビュー調査から、防災授業での教材は教科書と写真教材を主とすること、授業法では政府推奨の統合的授業はほとんど行われていないことを明らかにした。さらに現職研修の不備による火山防災や授業法に関する教師の知識・技能不足を明らかにした。また児童548名への調査から、一般的な火山防災は既習であるがMerapi火山特有の噴火への知識不足、当火山に住むMarijanと呼ばれる仙人の予言への対応などでの課題を明らかにした。ついで災害リスクが高い2校において児童の議論中心（2クラス）をおよび解説中心（2クラス）の授業を試み、後者が知識（2項目）と態度（1項目）での有意な変容が見られたが、前者では知識1項目のみの変容であり、この時期の児童には防災に関する解説も知識を深める上で重要と指摘している。これらの結果をふまえ、小学校における火山防災教育のためと国で一般的な知識に加え、各地域の火山特有の噴火や備えに関する学習の重要性に言及し、当地の教員による教材開発が必要と結論し、本人が新たに開発した例をも提案している。</p>																							

本研究は、インドネシア初めての本格的な火山防災教育の調査研究であること、また、学校の防災への備えに関してもハード面とソフト面両面での詳細な分析を行い、課題を明らかにしていること、学校での防災教育内容については教員の回答と児童の回答とを互いに関連づけて現状と課題を明らかにしていること、さらに校長及び教員の回答を互いに関連づけて現職教員の課題と研修の必要性を見いだしていること、さらに本研究を通して明らかとなった諸課題を解決のためのソリューションとして国共通内容に加え地域特有内容の学習の必要性と教員研修での開発を強調し、本人が開発した教材例を示している。これらの点でオリジナリティーが認められ、その研究内容は博士の学位取得水準に達していると判断した。なお本論文の主要な内容は学術論文4編（査読付）として公表済みであることを確認した。以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与されるに十分な資質があるものと認められる。